うたゝねく注

五

特別
イ 4
3163
60(5)

貴
仁
3163
6015

秋袋巻之五

時節　秋部

目録

天象
露　十三丁
初霜　十八丁
野分　廿七丁
地理
時令
秋田　十六丁
立秋　一丁
七夕　二丁
早涼
残秋　廿五丁
人事
小鷹狩　十一丁
秋夢　十八丁
草木
萩　十五丁
草香　十丁
葛　廿一丁
檀　四丁
花類
萩　十五丁
蘭　十丁
秋風　十四丁
月　十八丁
秋霜　廿四丁
秋野　十二丁
風告秋　一丁
秋夕　十六丁
秋夜　十七丁
九月盡　廿五丁
秋至　十五丁
駒迎　廿三丁
浅茅　八丁
稲田　十七丁
柞　廿一丁
黄葉　廿二丁
女郎花　七丁
草花　十丁
秋雨　十八丁
霧　廿四丁
稲妻　十六丁
初秋　十一丁
残暑　二丁
暮秋惜秋　廿四丁
九月九日　廿丁
秋興　十六丁
荊薑　九丁
葛　廿八丁
櫨　廿二丁
紅葉　廿三丁
薄　八丁
槿　十一丁

生類
菊　九八丁
出　十二丁
鶏　九七丁
服飾
擣衣　九五丁
雜
秋雜　九五丁

席　十四丁
暦　卅丁

鴉　九六丁

詞袋巻之五

時節　秋部

南雅云秋と白藏と云とあり○秋を司殺神と云かゝる神と云かゝる神と云ふ月令に孟秋帝少昊其神蓐收といへるなり但秋田農人秋と司る神と
あるなり風神也○月九長河上暑さゆくあるなり秋田農ゆ
めなり花をうゑる枝に風ふかるゝなり又七月上巳出行の風をかなしとおもふなり
花に仏る枝に風ふかるゝなり○西に秋人の先とらめ
ふ禮に西方の立秋謂白精之帝とも鶴冠子に斗柄西指而天下皆秋とかゝ
又杜甫の詩に大火向西流ともあり昔より秋に雨ふるまゝにいへり○況
枝にあるかゝるなり水悲秋なるゆゑに秋にあるなり○況
飽さらんかと多くなり○水の秋と昔今秋は上もおのみなるの
つゝ世に三月に秋と注に三月まゝにあるとわたして多くなり水の色
みまゝにすみわたるなり

歌秋　二月七月人節ふと云度伯度章伯市集六月立秋と詩に又七月の月
光なりと枝やうくんとうるゝ秋枝へるなり
立夏の秋に二秋に秋きあるなり
こもれるしくなるの秋白河とうる
を秋の秋なくと本とうしへて

秋夏　今回に公記也

立秋

けふよりは公記にうれ秋うる秋いてくるうる方うれ秋なるなり

一葉散秋　淮南子に一葉落而天下知

行宗

○

風生秋　風秋

竹風告秋　　寒川流　　雅経

曉風告秋　　さを性　　雅兼

○

初秋　早秋　新秋

初秋　　家良

早秋　　雅経

初秋曉露　　同

岡初秋　　雅兼

海辺初秋　　宗尭

泉辺初秋　　俊成

早秋　　長方

○

残暑

山家早秋　　雅経

早秋風　　雅兼

○

早涼　早涼至

早涼至　　正徹

早涼初秋　　正徹

○

七夕

七夕　　雅経

妹奈屋夜乙女奈屋多延淳奇餓勢屢あるハ五天織女ゑ也ゑ乙女ゑ也ゑ

七姫　秋さ姫　蓬姫　ゑ姫　ゑ姫　百子姫　乙姫　ゑ姫

早ゑ乙ゑの集ゑ乙ゑ乙ゑ牽牛と云ゑ或河鼓ゑ也ひて信ゑ云天の川ゑ也ゑ

山ゑゑのゑゑ男の神也。月今廣義曰集林大斗記ゑ天河八世ゑ平ゑ煌ゑ乙ゑ参ゑ石ゑ

ゑゑと牽牛と云ゑ天河八東ゑ早ゑ乙ゑ織女ゑ乙ゑ世ゑ乙ゑ世ゑ乙ゑ世ゑ乙ゑ世ゑ乙ゑ

とゝゆ○ひゝこ星ゝ形○織女形ハ人ノ如ク○詩經ニ睆彼牽牛。跂彼織女。又睆彼牽牛。跂服
箱終日七襄。又曰。跂彼織女。終日七襄。又复出正月。七月初昏織女正向東。ゆゑに詩人ハ事と
附會する説○春秋說曰。天河ハ東ニ織女あり。ハた天帝ノ子機杼を織て容環ニいとなむ。
天帝ゝハ獨居とあれ。河西に牽牛ハ夫ゝあり。婚姻を失ひ。天帝ハ怒て女
と河東ニうつす。一年ニ一度ハ會せしむ○搜神記ニ成都寺厨鶴鳴記として史記ニ優ゝ夫婦
あり。まゝ継母ありし。婦と伯陽と云。夫十二年。婦十二歳ニ成ル。婦ハ日ゝ織ル。
伯陽ハ牛九ヲ牧。或説。牛ハ牽ノ牛。夫ハ天ノ牽ノ牛。
鳥ノ子ノ夫と云。帝釈。無門関。水とあミ指ハ。あ。ふけるこ
てゝ。ゆゑ事とゆゑ。七月七日。帝釈。毒ニ。
孔年ニ一度ハ。ハ出ニ。ハ出ニ。時。烏鵲羽。
乃武陵道。ゆ。ゆ。七月七日織女河ニ。
別ゝ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。失物。
ゝ武丁ノ妻言。ハ。拙志。漢ノ張騫。
○盧仝ノ詩。瘢牛。孩女不肯。勤農業。
河鎖漢天。天河。天漢。字彙云。天河。
ゝ天と竟。楊泉。物理論。漢水ノ精也。
雲漢。
昂。惟。
ふ。

しゝ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ

[illegible]

七夕。天女の孫。河鼓の嬪。女郎。そしらの。又周處の風土記に七月七日夜
[illegible]利。[illegible]織女。[illegible]夜と守宮も
[illegible]皆[illegible]。[illegible]。[illegible]。

七月七日　安法
七夕　仰信
七月七夕　守定
七夕乃　同
七夕乃　同
七夕乃　同

霞ト萩ヲ[illegible]ハ風ト[illegible]ト[illegible]ハ[illegible]ト[illegible]ハ[illegible]ト[illegible]ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一時に同集俳諧に秋の部に入る也
あるひとこゝろふるいにを花も出るなり
まそのもひすしくへらひ中とくるに
行ひたる女郎花うゑ見たるこゝろ
○陰蔵妨ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ある女郎花[illegible]
人[illegible]
俳諧に[illegible]
只花と[illegible]
[illegible]
[illegible]
と花の[illegible]
[illegible]

女郎花

あこ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

補註　安法　後拾　玉葉　雅経

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

花薄
行路遠
遊子路遠
野徑遠
原遠

行客
俊秋
基俊
長方
安法
高重
俊忠
高忠
宗尊

漢石山草也。頌の物。草。和名智と云。同物。白羽草と云。白羽草未詳。可考。
ちくさむ中に多く淫草とあり。淫草。
草もとり。おりて。ゆあそこ。
ちえつ。おちつ上。淫草。りくあきちくん尾。
淫草。多くちつけて。〇つくれ。
とあり。
一九ちつ草。種。
とあり。
但。
つくれ。淫草。
つくれ。
百。
百オ。八。秋。
百オ。
百オ。
百オ

菖蒲 順按菖和名加夜とあり今漢名菖蒲とあり

[illegible]

菖蒲 順按万葉集に菖蒲根とあり

[illegible]

蘭 漢名蘭草順按布紀波賀万葉集用藤袴二字とあり

[illegible]

蘭

[illegible]

雨後蘭　藤原為忠

きてみれば雨のなごりの露ぬきて香ある草にかをるなりけり　孝廣

草香　秋花さきかをる草にかをるなりけり　秋成

草花　これも秋きく花にはあらねどもかをるなりけり　萩　女郎花　葛花　四草　蘭　花　藤　撫子　秋花　紫苑　桔梗　尾花　ゆふ顔　ゆふ顔　秋

乃野の花ぞかくれなき　乃野の花ぞかくれなき　乃野の花ぞかくれなき　

○

槿

行宗

秋槿

雅親

離槿

同

當很槿

仲正

小鷹狩

雨雅秋猟鳥猟郭業注云

秋とは猟の名部秋乃初也

○

露

漢書曰上大戴礼曰露陰陽之氣也夫陰氣勝則水化爲雨陽氣勝則散爲雨露

月令云孟秋之月白露降

○

霧

霧

朝霧
秋夕霧
庭霧
沙霧
草上霧
曉霧難
蒹葭霧

長雨
宮雨
月
光陰
秋雨
天運
暴雨
夕雨

○

虫 漢名蟲 倭名虫又何虫又虫何 ○天仁後開元天宝遺事曰毎至秋時宮中妃嬪單鏡以小金籠扣蟋蟀用時聞蟲声庶民之家皆效之又高僧傳曰道貴聞蟋蟀鳴時聞蟲声尺牛蕭置之枕函畔夜聽其声庶民之家皆效之 ○詩周南 螽斯羽說文螽蝗也 ○詩豳風 七月鳴鵙 ○詩小雅 出車 草蟲 ○詩豳風 東山 伊威在室蠨蛸在戶 ○詩豳風 七月 斯螽動股 ○詩豳風 東山 熠燿宵行 ○詩豳風 七月 斯螽動股 ○詩豳風 七月 在野 ○詩豳風 九月 在宇 ○十月蟋蟀入我牀下 朱喜注 蟋蟀 蛩又王孫又晴蛩也 ○新撰字鏡 倭織乃岐乃織 ○倭織 ○倭織 ○倭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひとへとあつうつるとをるうもむかし稚物語にうせ
うやすくぶゆゆへはれをやさうん物語にうとをうとを
ゆゆへはるうちうへの稚をうつうへひすうるれ　光雅

○

麻　雷雅曰鹿　和名抄牡麋之加　牡麋　和名抄牝麋之加　其子麋　和名抄麋之加　其尾辞麋　和名抄麋之加　置帛中能令歳久其毛不黦　拾遺則　嘉祥記文昌麋　麋也　麋也　麋也　雷雅曰　麋章
牡麋　牝麋　麋　其子麋　○ちくは　万葉三長歌　正鹿猪　鹿　○ちくは　万葉三長歌　正鹿猪　鹿　○ちくは　万葉三長歌　正鹿猪　鹿

と長難の停田をうりはらひ○雪おれくゆめ美女の床をうしろ向紀に音ある人を愛人をとろ
一八庫こうくつて。鬱鬱。牡庫牝庫こうくつ。くらし。白霜多くみて身と霊をうこれ乃
庫のうんと牝庫こへてこれ人乃こう射らそ白髪とあるこぬるこまをとこ。くすりはへられとこ年也。
いこ昧爽ゆめ偏人の牡庫と射らつこと。時人諺云牡庫実隨相夢也。又荘子郭人
新於郊遇駭庫驚之恐人見世藏之湿中要之蓬蒿間遺失遂以為夢イもわ○景行紀日本武
命信濃入於尾山沢白庫化作雲とあり。

庫

初学庫　いにしへ庫のくいはれをたづねるに月もしらのことくにて　雅俊
月前学庫　うれしらも秋のあくれやあらんこゝろしらるる　顕仲
暁庫　色ふかくあるいの秋のつゆけさにうきもあれやつゆけさにうきもあれやあるひのあ　秋盛
庫色遠　つゆけさにうきもあれやあるひのあ　光俊
暮山庫　らしさいとくに雲乃山のあらしもはげしくなり　
洞底庫　
野庫　なくこのかりこのこゑのしらるるは空に成ぬ　宗尹

秋至　大ゝく秋乃気常露紅葉月をまつ頃を眺望する所をとゝ

秋至

秋乃あるいの文を見ると興ゆることをむへて

秋興

秋乃秋興　秋のこゝろをゆとゝ乃ものうつくしく乃ものうつくしく　美性

秋乃秋興　秋のこゝろをゆとゝ乃ものうつくしく乃ものうつくしく悲愁きいまはる時なれ。

秋夕　秋ぴてうら悲秋をそ拙かのまゝ秋乃悲哀乃心を誘ともせ低ぬ凡そ秋乃
野山まゝ。鷹出動。雲月かけうけもそ乃
秋いの文字をゆりてうこゝ乃しゝ春曙とは
まこにおこうてもの。宝をはの里わらの
高もとなるゆゝ秋乃家と生ゆるこうく
とのうる也

秋夕傷心　秋夕乃物乃はれなるふ
こ筆順しうる歌とゝむ也

秋夕思　こゝうはとあるゝ筆まゝ
秋夕

秋夕情　なくこれ乃秋はこうあるこゝうはくるゝ人のゆくゝれ　宗尹
関雲秋夕　なあるこれうそむかこゝ乃ものうつくれ也ゝ乃ものう　雅俊
秋こゝ乃ものうつくれ也ゝ乃ものう　
秋こゝ乃ものうつくれ也ゝ乃ものう　雅俊

稿妻　漢名電。名霹靂。名列缺。名霊華。荘子曰陰陽氣大童泉上通於天陰陽之爭故為
電注南子曰陰陽相薄怒而為雷激而為電電雷之合也故為
稿乃字乃ゝ稿乃字乃ゝ稿乃字乃ゝ

○

秋田 早稲より晩稲にうつる時なり。秋田とは早稲速稲をいふ。万葉に、秋田刈仮盲乃廬乎作有と、早稲とあり。又時珍曰、粳稲有早晩三収六七月収者為早粳。

稲書

雅歌

○

秋田 早稲より晩稲にうつる時なり。秋田とは早稲速稲をいふ。万葉に、秋田刈仮盲乃廬乎作有と、早稲とあり。又時珍曰、粳稲有早晚三収六七月収者為早粳。

ろ子也ひきいる　をつくる也　百才八引　桴　ひらうち　縄　ひくの緒　ひきいる　山田　こか
ひくあるくも　先の○畠　同上　ひくとる　○山田のかりつ　苦　伝　偽　あ
しの山田　かりしの　かりしの　かりしの　今　かりきこと　古事記　山田の宮　富騰　云神
田　時　秋　物　也　乃　神像　あやかり　あるあや　あやかり　也　云也　○くえ　埴
とは　壊　埴　賀　粉　小山田　ひくこと　ひくこと　ひくこと

とゝしへ

三日月 漢名恒月 詩經又朏魄賦 人鑑胃方十二八若月離不見雲隱くらく〇万六拾

上弦月さてそこの月のかいねつ〇朝ちに三日也〇あまにいの〇〇ゝ〇ゝ〇ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日成魄月成光磐除體就穴臭始萌臭殺又云苑聚林云兎為天帝教人尋即死時老之後常
教身以餘恐牧體感其心不保其性寄之月輪傳平後世故彼感言月中之兎云云　月輪
○月輪中有兎之形如搗藥之狀　○月輪中有兎之形如搗藥之狀　○月輪中有兎之形如搗藥之狀
喻經曰有黑白二鼠互相齧樹根命盡　黑白二鼠晝夜齧之人譬喻經
云人處之迫如野中井中有人有狼來欲食人人懼墮井中井有毒蛇
草莖　○人處之迫如野中井中有人有狼來欲食人人懼墮井中井有毒蛇
猛虎毒蛇乃為人害也　○猛虎毒蛇乃為人害也　○猛虎毒蛇乃為人害也
毒蛇地獄　○毒蛇地獄　○毒蛇地獄　○毒蛇地獄　○毒蛇地獄
高光集　○高光集　○高光集　○高光集　○高光集
○月乃至第三十五　○月乃至第三十五　○月乃至第三十五

[illegible]

月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水鏡月　くもりなき月かげをうつせばこそ水鏡とは名づけたれ　小侍従
月浮水　あかぬ山のもとにいくかあらぬ月ぞうかぶる水のうへにも　忠宣
池月　ふるいけのあしのはにもくもりなくすみまさるかな池の月かな　宗良
江月　澄江のなかにわたりてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　同
河月　ながれのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗尊
湖上月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　同
海上月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗良
篠月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　同
林中月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　知盛
名所月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗良
社遷月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　芝性
古寺月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　光経
故郷月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　小侍従
山家月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　移尭
閑庭月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　知盛
田家月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗良
船中月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　芝性
行間月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　光経
月照行人　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　小侍従
行間月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　移尭
旅宿月　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　知盛
月前稽　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗良
月前稽　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　雅経
月前菊　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　知盛
月前鹿　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗家
月前蛍　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　俊教
月前蟋　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗尊
月前代　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　雅経
月前述懷　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　知盛
月前無常　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗家
月前念佛　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　俊教
月無夜去　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗尊
月照秋　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　雅経
月流秋思　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　知盛
月変秋　ながめやるうみのうへにかげをうつしてすむ月のうつるかげまでさやけきかな　宗家

○

駒迎　諸國の牧より貢馬を引き奉る事例年あり近代は其儀なし

○諸牧　諸國の牧より貢馬を引き奉る時は牧司より院宮へ院宮より
[illegible]
の○諸牧　[illegible]月十五日伊賀牧　[illegible]院宮
限之定　甲斐國御書牧八月十日　相模國真衣牧　[illegible]
野八月十六日貢馬　石川牧　由比牧　小野牧　[illegible]
五箇所八月十五日　山鹿牧　盛牧　岡屋牧　宮處牧　逢原牧
牧大室牧　猪鼻牧　萩倉牧　[illegible]牧　長倉牧　[illegible]
利牧　有馬牧　[illegible]牧　[illegible]牧　[illegible]牧　[illegible]
牧駒者毎年九月十日國司牧監若別當人等牧長[illegible]
[illegible]
その産生を避て前處に送り其國解文を奏聞す[illegible]
く其外[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
駒迎

○諸牧駒迎

○厩　月令に仲秋之月鴻雁來賓とあり注に秋之月陰氣漸盛陽氣漸衰陰氣
[illegible]
○厩[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

初冬　　紫式
旅宿　　同
遠鹿　　雅秋
夕月　　孫仲
深夜　　雅俊
雪中
雪面
月前雪　　雅秋

○

霧　深霧　霧の字は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。又二説あり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。霧は、霧の字の略なり。

○

霧

朝霧
山路霧
川霧
田家霧
雨景霧

搗衣　漢乃砧音斟　搗衣譜石要音止詩別作粘碪碪非也　唐韻碪砧岐沿伊人誕反同。
岐沿譜要抄云直春呂搗。　女人搗衣兩女對坐執杵賀美杵今易作杵俚ムヨ　對坐搗之則之便也
すわりてあたるいしを砧とかきめしとつめてきめしとつめてかけるを作東宮に事たる子納妃有石砧一枚又擣衣杵とかきめしかたるを岐沿伊太ものとかきめしかたるを岐沿伊太ものとかきめしかたるを岐沿伊太ものと

月前雞　長夜　長夜月前雞　聲聲不肯上　作有雞曰雞無晨鳴詩南云雞希莊子聖人雞是荀子夏之衣慰

雞中場夜　雞中場夜　雞中場夜　雞中場夜　雞中場夜

○

鳴　順按。鶏と之不ゝと同鳴ゝ也今鳴乃字と同ら形也鶏乃字は同さ也ゝ

蘇恭本草謂鶏性恒待ゝ人而鳴ゝ也陳藏器拾遺云鶏如鵝蒼黄色在泥塗間作鶏鳴三村或云雞四花

赤鶏　雞類也七鳴胸黑翅黄冠赤脚鶏京女鶏羽斑鶏杓鶏山鶏あり。しなすず鶏公才鶏公子鶏公子不ゝ伝鶏

鶏多識篇。板鶏あり。寺鶏海異物志云面如有板鶏常居板樹下頭上有長毛冠頭生青色鶏赤

可食ゝあり。又草鶏。本草鶏。東宇補鶏著八鶏伝代ゝ記ゝ。○鶏ゝ伝ゝ。そゝゝゝゝ

ゝ。ゝ。ゝ。

○うつせみの代々の人のなくこゑは鶉のなくにまさりけるかな○うつせみ之代々の人の○鶉 之 奔こゝに詩鄭風とあり。新撰和歌之細目あれ道とをけうるど○うつせみ

きてとゝ。憂くけれ。玉葉集。

鶉

宿とすとあるこゝろは。

里鶉

故つ郷

雅歌

こゝあれてまちうつるこゝろの床ならぬ宿をとうつくしかりけり　冨

すゝのこゝをあるへてゝ

高重

○野分

順抄云。暴風。塗語抄云。和名八夜知。文乃和名加世阿令。曰仲秋之月直風至注云直風疾風也。多醫。暴風日出風曰暴風。後上下曰類風。後上下曰飄。又曰扶摇風。位暴風思ひかけもなくるゝ。こゝの心。

風はたゝ野分のあとの風の音にあはれ秋ぞ吹かはりける　雅

山はけてくるゝとあるみとこゝろ。

あるゝ世のすゝ風のくれはてゝ秋の本かなとこゝ。

年ふるもはてゝ

秋の。

雅歌

野分のあとの風のこゝろ。

野分のあとの風のこゝろ。

野分のあとの風のこゝろ。

○

菊花

菊 順和名抄 唐本草注云菊日精草也和名加波良乃毛岐 菌蕈和名比岐乃毛毛太今俗是唱加波良乃毛岐 白高之路乃毛岐 仁德天皇七十三年始渡異朝青黄赤白黒菊種也 異朝三斛之青黒乃菊未詳 とあるこそ珍しけれ。菊の花の色は黒しとあるは、さしも菊の色は黒しとは今の盛德奏金

月ひかりのるしとは。そ菊の苗種あれ。

よりしは呉淑秋賦。金氣方勁。るとは。金南金素庚金と秋乃一若こそ。又金風と秋の風とは。

史記菊譜序。菊草屬也以黄為正。故花至殘後方衰。故菊黄而歳首。あるは秋は黄氣と

丹竈ともいはるるは。其花は味甘味甘は黄也。秋は黄氣と

やはり。秋下敏。秋は黄氣と。

やはり。花の色は。

かは。菊と。

菊は。

○

菊風

菊花

菊 順和名抄 唐本草注云菊日精草也和名加波良乃毛岐 菌蕈和名比岐乃毛毛太今俗是唱加波良乃毛岐 白高之路乃毛岐 仁德天皇七十三年始渡異朝青黄赤白黒菊種也 異朝三斛之青黒乃菊未詳

よのうたのみてをやまの菊の花いろ〻にけるこゝろ〻かな

かをとゝはむ山路の菊のうすくこそ

菊の乃多をいくゝ風くれたゝやいとこそ秋の乃なの

宗良

西徹

菊の花は。

菊は。

菊は。

菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊

山籬尋菊　露蘭
庭上菊　雅光
籬菊花　宗之
谷菊　西童
水崖菊　顯仲
菊浮月水　雅澄
月前菊　宗長
菊露　雅故
菊陣中友　雅光
菊花畫袖　雅澄
殘菊　宗長
殘菊句　雅故

九月九日

月令廣義曰九月九日故曰重九又替雅類書曰魏文帝与鍾繇書云九為陽數而月並應故曰重陽抱朴子曰桓景從費長房遊宮長房謂曰九月九日家有災厄令家人作絳囊盛茱萸繫肘宜高飲菊酒祛禍可消景如其言舉家登山至夕還雞犬皆暴死長房曰代之事今人重九飲菊花酒蓋此又

孟嘉傳曰嘉為桓溫參軍既和正溫甚重之九月九日溫遊龍山參僚畢集時佐吏並著戎衣有風至吹嘉帽墮落不覺又襄陽記云鳳嶺高處有三隍即劉弘嘗九日宴賞之所後獨孤一遇遊隍之事故詩人多以為故事又周公瑾詩云九月九日菊花開故事與周公瑾詩同○西京雜記曰漢武帝宮人賈佩蘭九月九日佩茱萸食蓬餌飲菊花酒云令人長壽柳傳自吉凶知其福又朝野僉載言元魏時禁採故事於漢載則有萸椒宮人之名似為絕世下句尋酒號令魏文亦黃花助彭祖之術蓋遺逸之彭祖乃今以久特聞但其年八百歲云詳于列仙傳又魏武帝与鍾繇書曰九月九日草本遍枯而菊芳獨秀人奉玉杯以為壽延之詩諸草木方曰九月九日採菊花與茱萸相雜以入酒服之令人不老○菊花與漢武故事所說相同○菊花與漢武故事所說相同○菊花與漢武故事所說相同

今日重陽昔人以糕酒登高眺回以暢秋志採茱萸甘菊長壽之○此乃以大菊為重陽宴殘菊宮女所採者也

九月九日

萬　茱萸

順物紀曰茱萸順物紀云茱萸似細橘葉著處即生根臘包綿石旁花白子重云云紀云定家夢也本綱云烏藪塹塹回多其藤葉有三枝一莖九五葉葉長而光有味甚美冬月結蔓成旋青白色花大如粟黃色四出結實大如椒麥子生青熟紫內有細子云云又曰茱萸秋末子生青熟紫內有細子云云又曰茱萸秋末子生青熟紫內有細子云云又曰茱萸秋末子生青熟紫內有細子云云

拾也又曰書云地錦生樹下葉如鴨掌藤蔓著地節處有根亦緣樹石冬月乾死云云又曰茱萸云云赤草如蓬蒿云云

蘿云云陸詩疏云云蘿蔓延木上和名勇云云佐流平加世又本草云萬一名寓木所謂寄生

草也葉似當盧子能復血赤皇[illegible]義之[illegible]
[illegible]天雲別石[illegible]者[illegible]
[illegible]波布都多[illegible]和我礼今之欲理[illegible]
[illegible]

柞

柞紀葉 僕語抄云柞石波波雷俗云柞櫟也詩小雅折其柞新注云柞櫟也詩緝曹氏曰柞堅忍之木新葉將生故垂乃落附著其固又本倜云柞乃萬樣樣之異名五樣枝長葉盛叢生有刺詩晨風山有苞櫟陸機曰即柞櫟也秦人謂之櫟徐人謂之杼或謂之橡其實謂之皂斗陸曰櫟柞木也此木堅忍可鑿柱今作[illegible]柞有三種二種不結實者名[illegible]
志赤詩大雅旱麓瑟彼柞棫又曰大雅云柞棫被美也[illegible]
[illegible]

櫨

櫨紀葉 和名波[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

櫨紀葉 和名萬由美詩伐檀曰坎坎伐檀陸機詩疏曰檀榆之類也陳藏器曰樹體細堅[illegible]柯至夏有不生者忽然萎死常有大水農人候之以占永旱[illegible]檀但檀有黃白二種黃者如梶皮青而澤其肌細膩其體重堅其實如棟子而小[illegible]
[illegible]

檀紀葉

黃葉 [illegible]
[illegible]

黃葉
[illegible]

○

紅葉

[illegible]

黄葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○紅葉を燒こと[illegible]朗詠[illegible]

[illegible]

○紅葉鹽 [illegible]

○紅葉の中[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

紅葉深　深つくしの山にはいつもきりぬきをあさくくれなゐ　雅親
紅葉看深　をあさくくれなゐ　光俊
月前紅葉　三日月はかたぶくまでの入方をあかくくれなゐ　為重
雨後紅葉　あかくくれなゐ　覚性
紅葉満山　くれなゐ　公経
隔河紅葉　たつたの山のくれなゐ　雅経
故郷紅葉　ふるさとのくれなゐ　同
社前紅葉　やしろのくれなゐ　顕茂
松間紅葉　まつのくれなゐ　顕綱
紅葉散風　くれなゐ　宗良

○

秋霜　あさ〻秋霜をとる〻　雅経

○

惜秋　惜秋　くれてゆくあきにはいとをかけまくをしみかな也　宗実

○

暮秋　九月の末　秋の暮　秋の暮　秋の暮

秋色　つゆ霜に秋の色こそあらはれぬ今いくあさの月をみるらん　雅経

秋懷　秋ちかのこしの国辺の秋の月　後鳥羽院

秋恋　わすれしをこそ思ひいでぬ秋の夕べの月ぞ　雅経

山家秋思

山家秋意

秋山朝　あさぼらけ霧たちこめる秋の山に風うちふく　雅経

海上秋泊　舟の泊りの月ぞ　雅経

秋寢覺　秋の夜の月ぞ　道信

秋燈　かくてのみ秋の夜ながらもいつまでかとぎ上げる秋の燈　後鳥羽院

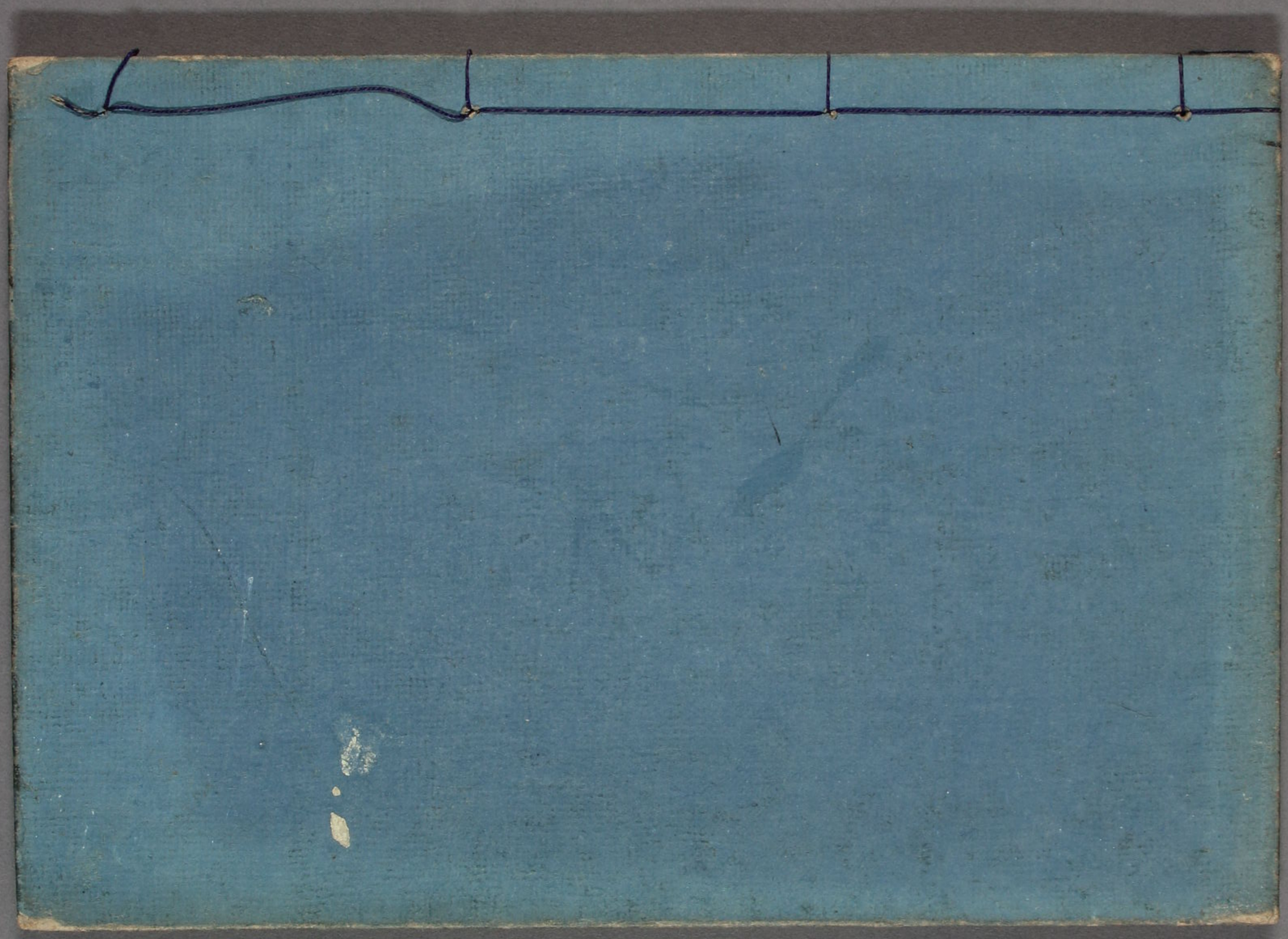
秋蓬　霜ふかく月ぞ　同

秋島獸　秋の入り霜ぞ　同

秋牛

秋蛾

秋雜　月ぞ　雅経

秋祝　秋の月をいつ　同

秋の月ぞ　同